

松阪市子ども支援研究センターだより

松阪市子ども支援研究センター〈TEL. 26-1900 FAX. 26-1901〉
E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>
松阪教育支援センター「鈴の森教室」「三雲やまゆり教室」
〈TEL 26-1900 FAX 26-1901〉 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp

1年間ありがとうございました

今年は3月になって暖かい日が多く、子ども支援研究センターから見える桜の木も蕾が膨らみ、今まさに花を咲かせようとしています。

子ども支援研究センターでは、研修講座、教育相談、教育研究、不登校児童生徒支援、情報教育、外国人児童生徒教育等の事業をすすめておりますが、今年度は、当センターで2つの事業が、新型コロナウイルス感染症対策で大きく影響を受けました。1つは、夏休みを中心とした研修講座ですが、今年度は2講座のみの開催であとは中止となってしまいました。毎年この研修講座を楽しみにしていただいていた先生方には大変申し訳なく思います。そしてもう1つは情報教育において、ギガスクール構想の前倒しにより、小中学校の児童生徒に1人1台端末を今年度中にすべて整備したことです。この1人1台端末整備においては、いろいろな面でご協力いただきまして本当にありがとうございました。



子ども支援研究センターでの1年を振り返ると、「いっぽ教室」に通う子どもたちからは、学ぶことの楽しさや夢を持つことの大切さを教えてもらいました。支援センターに通う子どもたちからは、心が元気になると笑顔が増えてくることを感じさせてもらいました。また、情報教育を進める中で、先生方がICT機器を活用した新たな授業づくりをしている姿から、教育への熱い思いを見せていただきました。私事になりましたが、このようにいろいろなことを体験させていただけたことを嬉しく思います。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、たくさんの学校行事が見直されることとなり、それによってそれぞれの行事の意義やあり方について、改めて認識する機会となったことと思います。当センターにおいても、今まで取り組んできた事業についていくつか見直しをすることができました。そこで、松阪の教育が子どもたちにとってよりよいものになるように、事業内容の充実・改善を図ってこれからも進めていきたいと思っております。

一年間、皆様にはギガスクール構想をはじめセンターの事業にご協力ご支援をいただきまして、本当にありがとうございました。
(西出雅子)

外国につながる児童生徒のための進路保障に向けた学習カリキュラム

松阪市では、外国につながる児童生徒、その家族の定住化が進んでいます。初来日する子どもからは、「日本で働き、幸せな家庭を築きたい。」保護者からは、「日本で子どもに教育を受けさせたい。」という声が多く聞かれます。その思いを大切に、将来、外国につながる児童生徒が日本社会の中で自立し、社会の一員として生活できるように進路保障の取組の充実が求められています。

今後、外国につながる児童生徒が、日本で豊かな生活を送っていくためには、自ら日本語を使い、自分の思いを表現するための「確かな日本語力」をつけることが大切だと考えています。そこで、日本語の語彙力と日本語によるコミュニケーション能力の向上をめざして、「外国につながる児童生徒のための進路保障に向けた学習カリキュラム」を作成しました。この学習カリキュラムの冊子については、後日、各小中学校に逡送便にて送付し、ワークシートについては、電子メールにて各小中学校に送付させていただきます。学校の実情に合わせてぜひご活用いただきたいと思います。

子ども支援研究センター研究集録

2人の長期研修員が、市内の小中学校にご協力いただき
取り組んだ研究を、研究集録にまとめました。



研究集録 第139集

「不登校児童生徒を支える支援のあり方について」 —養護教諭の取り組みを通して—

全国的に不登校児童生徒数が増加している中、松阪市では中学校における不登校生徒数は、2年連続で減少しています。本研究ではいろいろな立場の教員にアンケートや聞き取りを行い、それぞれの立場でどのように不登校児童生徒へ支援を行っていくのがよいか、また、不登校対策コーディネーターとしての役割や不登校対策委員会のあり方についての考察をしました。不登校対応は「個」で対応するのではなく、「チーム支援」を基本とし、学校組織作りから考慮しなくてはならないことがわかりました。また、校区不登校対策委員会においては、小中連携の一つの場と捉え、未然防止の観点から校区統一の取り組みを進めていくことが効果的であると考えます。本集録が今後の不登校対応に携わる方々の一助となれば幸いです。

(長期研修員 渡辺 亜希)

研究集録 第140集

校務の情報化 —校務を効率化し、教育の質的向上を実現する 統合型校務支援システムのあり方について—

校務をより簡単に、より正確に処理できるようになる「校務の効率化」と児童生徒の実態をとらえ、教職員間で共有することで指導や支援に活かせるという「教育の質的向上」を実現する統合型校務支援システムのあり方を機能面、操作面、その他の面の3つの面で実証研究を行いました。

研究を終えて、必要とされる機能は何か、誰にでも使いやすいシステムの要素とは何か、誰もが安心して使っていけるようにするためにどのようなことが必要かを検討し、まとめることができました。システム自体の構築も重要ですが、使う側が統合型校務支援システムの活用の意義や期待できる成果、適切な活用法を理解し、組織として積極的に運用していけるように体制を整えていくことも重要であることがわかりました。

今後の校務の情報化の一助になれば幸いです。

(長期研修員 中野 元喜)